中央小学校だより

令和　１年　６月　１８日　　中央小学校　学校通信

歴史の学習楽しみだね

６月１１日に６年生が奈良方面へ社会見学に行ってきました。社会科での歴史の学習が始まって２か月。この日は東大寺・薬師寺・法隆寺を訪ねました。例年と違うところは「薬師寺」を入れたところです。このお寺は「天武天皇が皇后の病気の平癒（完治）を祈願し薬師寺建立を発願して697年に藤原京に完成させた」(6年生のしおりより)世界遺産に指定されているお寺です。長い歴史の中で数々の天災・人災に見舞われ再建されてきたせいか、新しく感じます。歴史的建造物の見学そのものだけではなく、ここを訪れた理由はもう一つありました。

５年生の国語の教科書に「千年の釘にいどむ」という題材がありました。この建造物の復興に携わった「白鷹さん」（釘を作る職人）の仕事の素晴らしさやすごさをより身近に感じるためです。

以下の文も６年生のしおりからの抜粋です。

≪釘の秘密とは≫

節をよけて曲がる釘・・・古代の釘は適度にやわらかく、打ち込んだ時に木目になじみながら木と一体化して建造物を長く持たせました。

⇒白鷹さんはこの秘密を知り、古代の釘職人にいどむのです。

白鷹さんは、この釘のために1000本以上作ったのです。

≪白鷹さんの名言≫「僕はやっぱり鉄にほれているんですよ。」

６年生の見学態度が熱心だったからなのか、お寺の方が、わざわざ「ちょっと説明しますね。」と言ってくださり、お話を伺うことができました。その中で、白鷹さんは昨年亡くなったことも知りました。お話が聞けて良かったね。これからも歴史の学習が楽しみだね。

音楽の授業から（6年）

中央小学校の児童の歌声がとっても美しいのは、日ごろから子どもたちが「響かせる」「聴きあう」ことを意識しているからだと思います。そして高学年になると「ハーモニーを感じながらあわせていく」ことができるようになります。それができるように、先生がそのように指導し、子どもたちの気持ちを引き出し、高めていくわけです。ピアノの周りに集まって、発声練習から始まり、「校歌」や「翼をください」などを歌っているとき、子どもたちへの教師からの評価だけではなく、歌わずに聴くだけの役を決めて、子どもたちが評

価をする場面をつくっています。
「きれいな声だった。」「はもっている。」「サビの入りが少し小さめだった。」「ソプラノとアルトのバランスが取れていないところがあった。」など、子どもたちは、鋭いところに気づいていきます。そして自分たちで気づいたところを新たな課題としながら、そこを改善していく。自ら課題を追求していく音楽科でのスタイルが確立されています。

そのあと、「ラバースコンチェルト」の楽器練習でした。ＣＤで曲を流しながら、鍵盤ハーモニカやリコーダーなど、自分のパートを繰り返し繰り返し練習しました。そして先生が声をかけます。「あきらめずに伴奏についてきて。ついてこられなくなっても、入れるところで入ったらいいからね。」「小節の始めの音だけでも確実に入れよう」楽器が苦手な子もいるので、個別の目標を持って取り組んでいるのです。「音楽は時間の芸術だから」先生は言いました。指が動かなくて、細かいフレーズが完璧に演奏できなくても、頭の 1 音を確実に入れたら曲の流れに乗り時間が流れていく。なるほどなと思いました。

「はい、これで今日の授業は終わります。」と先生が言ったとき子どもたちが何人か「ええ？」「もう？」「早！」と声が上がりました。そして「これぞまさしく、“時計の時間”と“心の時間”やな」といった子がいました。その言葉に周りの何人かの子が納得しているようでした。「それどういう意味？」と私が聞くと、その子たちは答えてくれました。

「時計の時間は時計が表わす時間で、心の時間は自分たちが体感している時間のことで、人によって感じ方が違うんだ。」「楽しかったり集中したりしているときは時計をあまり見ずに、あっという間に時間がたっていく。」「国語で習ったよ。」

きっと子どもたちは、音楽の授業に集中していたのだなあ、そして音楽が好きなのだなあと感じました。しかし、その実感したことを国語で学んだことを引き合いに出して言葉で表すことができるなんて、とても素晴らしいと思いました。教科と教科がつながり、学んだことと感じたことが一体となった瞬間でした。

中央フェスティバル開催

6 月 18 日（火）2 時間目に恒例の中央フェスティバル（児童ゲーム集会）が開かれました。たった 1 時間という時間でしたが、担当の 4・5・6 年生の代表委員を中心によく工夫をし、段取りよくゲームを進めました。また、スマイル班（縦割り班）のリーダーの 6 年生も、下級生のことをよく考えて、動き、楽しませようと努力をしていました。

「かんつみ」「わなげ」「なぞなぞ」「スポーツおにごっこ」「ボーリング」「まとあて」などのコーナーがありました。私がちょうど「わなげ」のコーナーにいた時、チームで 10 本のわなげを班のメンバーで分けるときに、ある 6 年生の子が、自分は 1 個にして下級生たちに渡す輪の数を多く渡している光景に出合いました。心が温かくなるのを感じました。

小規模校のいいところは、縦割り班の活動が組みやすいこと、このような行事を達成した時に、高学年としての自尊感情が高まり、低学年は優しくされることによって「こんな高学年になりたいな」という思いが持てること、そして学年に戻った時に、それぞれで意見や感想を交わしながら、自分たちの言動を振り返り、友だちの感じた嬉しさや、これから改善していきたいことなどを共有できることだと思います。みんなの協力と 4・5・6 年生のリードのおかげで楽しいゲーム集会になりました。